

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2021-012
2.研究課題名	報酬価値は時間により変わるのか？ —強迫／依存傾向関連行動に対する早期／遅延報酬の実験的検討—
3.研究期間	令和3年 12月（倫理委員会承認後）～ 令和4年 11月 30日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 私たちは日常的に何回も確認したり、手や身体を不潔に感じて洗ったりすることがある。しかし、それらの確認行為や洗浄行為が過剰に行われることで、「強迫行為」として日常的に不適応を来す場合がある。強迫行為は、軽微ではあるが健常者にも認められるが、症状がひどい場合には治療の対象となる。 介入の方法の1つ目が、報酬を遅らせる方法である。強迫傾向のメカニズムについては、刺激が与えられた場合、強迫観念が生じ、強迫観念を低減しようとする衝動が生じる。その際に、いつも行っている儀式行動を行うことで、安心感を得ることができ（報酬）、一時的に強迫観念を払拭することが可能となる。治療においては、儀式行動による報酬価の低減が有効なアプローチとされ、これまでの心理療法においては、報酬を遅らせる暴露反応妨害法へと発展してきた。 介入の方法の2つ目は、むしろ報酬を早める方法である。の方法は、逆説的介入と呼ばれ、儀式的な行動を低減するためのアプローチとして推奨されてきた（原田，2007）。この根拠となっているのが、学習理論である。毎回報酬が一定量与えられるよりも、間隔をあけて報酬が与えられた場合の方が、より強い強化となってしまうことが示されている（Skinner,1934）。この理論を強迫傾向に応用すると、儀式行動までの時間的感覚を空けずに、むしろ積極的に儀式行動を選択することが効果的であると考えられる。 このように、強迫行為に対しては、報酬となる儀式行動が行われるまでの時間を、可能な限り空けることを推奨するアプローチと、狭めることを推奨するアプローチが行われている。しかしながら、これらと比較して、どちらがより効果的なのかを検討する研究は行われていない。したがって、これらの報酬を早める／遅らせる治療法を比較し、どちらが強迫傾向を低減させることに有効であるかについての検討を行う必要がある。したがって本研究では、遅延報酬がその後の習慣的で不適切な行動を抑制することに寄与するかどうか時間と報酬価値の強度の関連を検討することを目的とする。 倫理的項目 インフォームド・コンセントとして主に以下の内容の同意を受ける。 ①研究の意義や目的 ②方法や実験の期間 ③研究対象者として選ばれた理由や参加することによる利益 ④データは番号によって個人が特定されないようにしたうえで厳重に管理すること ⑤データは研究以外の目的では使用しないこと ⑥研究結果は個人が特定されない形で公表されること

	⑦研究対象者への負担緩和策を講じること ⑧調査や実験によって、気分が悪くなったり、中止したくなったりした場合には、ただちに調査や実験を中止や協力の撤回をすることができること。研究に参加しないことで不利益を被らないこと。 ⑨もしも実験の負担で誰かに相談したくなった場合には実施担当者が実施責任者と検討のうえで適切な相談機関の案内等対処すること ⑩研究参加以外の他の選択肢があること ⑪医療行為ではなく、研究行為であることの明示 ⑫研究資金先や謝礼の明示があること その他、研究実施にあたり、監修として佐藤克彦医師（三楽病院精神科長）を加え、患者を対象としていないが、臨床上問題となるような場合に、その対応に備える。また、実施担当者は心理療法を専門とする臨床心理士有資格者である。
	方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 研究Ⅰ： クラウドソーシングサービス（Web 調査会社）を利用し、大学生 200 名に対して、質問紙調査を行い、以下の②について回答を求める。②の得点が高い 30 名を、実験対象とする。 研究Ⅱ： クラウドソーシングサービス（Web 調査会社）を利用し、強迫傾向が高く、侵入思考に対する責任の評価が高く、1 日あたり 1 回以上侵入思考が生じる、300 名の 18～60 歳の者を対象に、1 日当たりの侵入思考の頻度、強迫傾向尺度（井出ら、1995）、侵入思考に対する責任を測定する TAF 尺度（鈴木・代田、2004）によるスクリーニングを行う。そのようにして得られた、強迫傾向の高い 45 名を対象に実験を行う。 研究Ⅲ： Web 調査会社を通して、300 名の 18～24 歳を対象とし、質問紙調査を行う。その後、③の得点に基づき、テレビゲームなどの依存傾向が高い対象者を 30 名抽出する。その 30 名に、両親のうちいずれか 1 名とともに親子で参加するように依頼し実験を行う。
	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 東北大学大学院 教育学研究科 教育心理学講座・臨床心理学分野 若島 孔文 研究室 電話／FAX (022) 795-6139

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）